

# イセエビ（幼生・稚エビ）の来遊状況と漁獲量の関係

千葉県水産総合研究センター 資源研究室

## ■ 要約

千葉県南房総市川口地先に来遊するイセエビのプエルルス幼生の採捕量と1年後、2年後の漁獲量の間には、弱い正の相関があるとされていたが精度が低いのが課題であった。プエルルス幼生は着底後短時間で稚エビに変態することから、稚エビを含めた採捕量と2年後のイセエビ漁獲量との関係を調査した。その結果、プエルルス幼生・稚エビの採捕量と外房沿岸域の2年後の漁獲量の間に関係（強い相関）があることが認められた。

これらのことから、プエルルス幼生（稚エビを含む）の来遊状況を把握することで、2年後の漁獲量が予測可能となり、各地先における資源管理に活用できると考えられた。

研究課題：2007-08 磯根資源（アワビ・サザエ・イセエビ）の漁獲実態及び生物特性の把握

## ■ 背景・ねらい

イセエビは、内房～外房の岩礁域で広く漁獲される磯根漁業の重要魚種である。千葉県では産卵期の保護を目的に6～7月は禁漁期となっており、8月の解禁時の漁模様に対する漁業者の関心が高い。これまでに、南房総市川口地先に来遊・着底するプエルルス幼生の採捕量と同地先における1、2年後の平均漁獲量には弱い正の相関があることが知られていたが、精度の低さが課題であった。本研究では、着底後のプエルルス幼生の期間の短さを考慮し、稚エビ（着底初期：第I期稚エビ）を含めた採捕量とその後の漁獲状況を把握し、両者の対応関係を評価することで、漁獲量の推定精度の向上を試みた。



左：イセエビ成体

右上：プエルルス幼生

右下：第I期稚エビ

## ■ 成果の内容

- 1 プエルルス幼生及び稚エビの採集器1基当たりの累積採集尾数と、その年級群の漁獲尾数の間には強い正の相関がみられた ( $r=0.85$ ,  $p<0.01$ )。
- 2 外房の4漁港（大原，川津，太海，川口）における漁獲物の年齢を推定した結果，2齢エビが7～8割を占めており（図1），プエルルス幼生・稚エビの採捕量と2年後のイセエビ漁獲量との間で，回帰式 $y=6.604x+123.83$  ( $r^2=0.6537$ ) が求められた（図2）。
- 3 プエルルス幼生・稚エビの来遊状況を把握することで，外房沿岸域におけるイセエビ資源の加入水準の評価及び2年後の漁獲量の予測が可能となり，各地先における資源管理方策の検討に活用することができる。

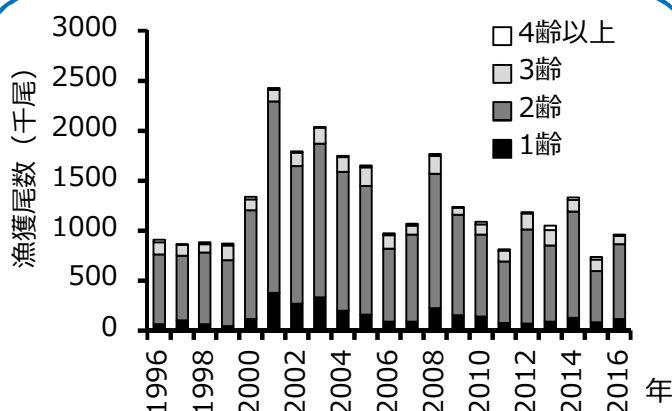


図1 夷隅東部～旧白浜漁協におけるイセエビの年齢別漁獲尾数

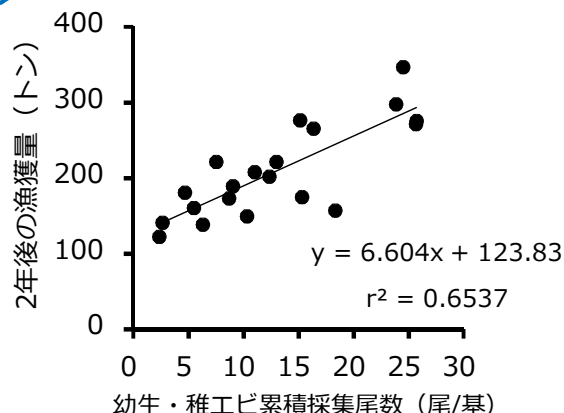


図2 プエルルス幼生・稚エビの累積採集尾数と夷隅東部～旧白浜漁協における2年後のイセエビ漁獲量の関係